



### 日常診療からの疑問と症例報告

#### ☆推薦文☆

ある日、山本翔太郎先生からメールが来て、現在入院中の高齢患者の血液培養から、*R. planticola* という珍しい菌が同定されたことを教えてくれました。すでに色々と調べてくれていて、*compromised host* での菌血症の症例報告が複数あるとのことでした。直感的に、担癌患者である可能性が高いと意見が一致し、徹底的に悪性腫瘍のスクリーニングをしてもらいました。その結果、早期胃癌を見つけることができ、是非英文誌に症例報告して、世界中の臨床医に向けて警鐘を鳴らしたいとの彼の熱意が成就しました。CRST メンバーとして私のしたことは、登山口から頂上までの簡単な道案内程度ですが、優秀で熱意のある山本先生にとっては、それで必要十分なヘルプでした。彼の勤務していた神石高原町立病院は地域の高齢者が多く入院する病院ですが、そのような病院でも、彼の”*prepared mind*”が今回のセレンディピティーにつながったものと確信して疑いません。4月から勤務する病院でも、彼の”*prepared mind*”が遺憾なく発揮されることを期待します。

自治医科大学内科学講座アレルギー・膠原病学部門 永谷勝也

自治医科大学附属病院 アレルギー・リウマチ科  
(2018年4月から公立みつぎ総合病院 内科)  
山本翔太郎 (広島県 35期)

皆様、はじめまして。2018年4月から広島県尾道市にある公立みつぎ総合病院で勤務することになります。2017年3月まで勤務していた神石高原町立病院で経験した興味深い経験が症例報告 “A Case of *Raoultella planticola* Bacteremia in a Patient with Early Gastric Cancer”<sup>1)</sup> として日本内科学会誌の *Internal Medicine* に掲載されることとなり、このような機会をいただくことができました。



広島県神石郡神石高原町は広島県東部にある地域で、人口は1万人弱程度、高齢化率約46%の町で、標高約500mの吉備高原の一部になります。神石高原町立病院は常勤医が内科5名(内自治医大派遣2名)、そのほか非常勤の先生のご支援をいただきながら診療をしている病院です。

症例の詳細はぜひ論文を参照していただけたら幸いですが、菌血症として入院時から抗菌薬で治療しており、当初の発熱や炎症反応は改善し、結果として感受性もあつたことから、菌血症そのものを治療すること自体はさほど困難な症例ではありませんでした。*R. planticola*は初めて聞く菌種であつたため、調べてみると30例強の菌血症の症例報告があり、その約70%が悪性腫瘍の合併や化学療法が行われていました。そのため、この菌が悪性腫瘍と関係あるのではないかと考え、悪性腫瘍のスクリーニングを行いました。胃潰瘍があるのみで悪性腫瘍はありませんでした。胃潰瘍の治療開始2ヶ月後に上部消化管内視鏡検査を再検したところ、わずかに発赤した粘膜から早期胃癌の診断となりました。高齢者でもあり偶然の合併かもしれませんが、今までこのような視点での考察が行われた報告はなかったため、症例報告として報告することとしました。

症例報告は学会で発表したことはありましたが、論文として症例報告は経験がありませんでした。以前原著論文<sup>2)</sup>を作成した際に学んだ”*思いついたら、早く論文にすべき*”ということを実践すべく、CRSTのメンバーである永谷先生に相談し、アレルギー・膠原病学の佐藤教授からも具体的な症例報告の書き方についてご指導いただくことができました。”*今までの報告から分かっていること*”をまとめ、IntroductionとDiscussionで紹介し、今回の症例から”*新たに考えられる意見 (= R. planticolaが悪性腫瘍と関係しているかもしれない)*”をDiscussionの中心にしようと考え、これを基本軸として書き方のご指導をいただきました。投稿雑誌はCase report誌への投稿もすすめられましたが、せっかくなのでImpact Factorのある雑誌にしようと考えていまし

たので、最終的に Internal Medicine に決定しました。投稿規定にそって調整をすすめ、投稿し掲載されることとなりました。

地域での日常診療から英文の症例報告にすることができ、どんな病態でも1つ1つ丁寧に考えていくことが日常診療で重要で、その些細な疑問が症例報告にも繋がるのではないかと考えることが出来ました。今回の経験を活かし、今後も診療を続けていきたいと思えます。

最後になりましたが、膠原病でなく感染症という専門領域外であったにも関わらずご指導いただきましたアレルギー膠原病学教室の簗田教授、佐藤教授、永谷先生に拝謝いたします。

- 1) Yamamoto S, Nagatani K, Sato T, Ajima T, Minota S. A Case of *Raoultella planticola* Bacteremia in a Patient with Early Gastric Cancer. Intern Med. **57**: 1469-1473, 2018
- 2) Yamamoto S, Nagatani K, Sato T, Iwamoto M, Takatori S, Minota S. Unaffected reaction level in tuberculin skin test by long-term therapy with tumor necrosis factor inhibitors for rheumatoid arthritis. Int J Rheum Dis. **20**: 584-588, 2017



図1. 神石高原町立病院

広島大学の学生が地域医療実習に来た時に病院正面で撮影したものです。スタッフ仲良く仕事ができるよい環境でした。時々初期研修医も地域医療研修に広島市や福山市からやってきて、一緒に外来業務や入院業務を行っていました。

**地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集**

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

1. 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
2. 自薦・他薦を問いません
3. 連絡先：地域医療オープン・ラボ [openlabo@jichi.ac.jp](mailto:openlabo@jichi.ac.jp)

[発行]自治医科大学大学院医学研究科  
地域医療オープンラボ運営委員会  
事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1  
TEL 0285-58-7477/FAX 0285-44-3625/e-mail [openlabo@jichi.ac.jp](mailto:openlabo@jichi.ac.jp)  
<https://grad.jichi.ac.jp/>